

きぬがさ

東近江市立能登川西小学校
学校だより No.9
平成 29 年(2017 年)9 月 29 日

「実るほど頭を垂れる稲穂かな」

いつの間にかすっかり夕暮れも早くなり、朝夕の涼しさとともに秋の深まりを感じる頃となりました。皆様には、ますますご健勝でお過ごしのことと存じます。

過日は、澄み切った秋空の下で、子どもたちのがんばりと保護者・地域の皆さんの応援のおかげで大変立派に運動会を終えることができました。子どもたちにとりましては、殊のほか実り多い一日になったことと思います。様々な面でのご支援ご協力に心より感謝致します。



さて、今年度も6ヶ月が過ぎ、いよいよ後半に入りました。子どもたちの様子はいかがでしょうか。自分らしく生き生きとした毎日を過ごしているのでしょうか。最近の子どもたちは忙しく時間を過ごしています。忙しい日々の生活の中、親子で一緒にいる時間が少ないにもかかわらず、ゲームやテレビやスマホに費やす時間は増えてきていることが学校の生活アンケートでもうかがえます。

8月23日付中日新聞で、小学生・中学生で「スマホを使う子どもたちに何が起こったのか」をその道に詳しい東北大加齢医学研究所長の川島隆太Dr.が、次のように述べられています。「～自宅学習の習慣のない子どもたちの成績が下がるということは、学校で覚えたことが脳の中から消えて無くなったと考えられます。スマホを操作している時の脳活動では前頭前野の脳活動が低下しますので、これが原因の一つかもしれません。実際、スマホのアプリで音楽を聴こうと、動画を見ようと、ゲームをしようと、メッセージのやりとりをしようと、それらを使うとその時間に応じて学力が低くなるのです。スマホを使うと脳の機能に障害があることは、もはや疑いようがありません。～」

これに付け足すならば、家で2時間以上ゲームやテレビやスマホに費やすならば365日で約800時間にもなります。これは1年間の学校での総授業時数です。学校での学習は、休み時間等を除いて正味4時間30分×180日で810時間です。学習内容を定着させ考える力を育てるため、家でのメディア視聴時間の制限は、子どもたちの将来のためにやむなしと考えます。

いずれにしても、これらのメディアは魅力的なもので習慣性と依存性があります。我慢できる子は学力が上がり20年後の年収に差があったというアメリカのマカロンの研究もありますし、何よりも親子関係を阻害したり、愛情や思いやりといった人との関わりを希薄にしたりするとわたしは思います。

10月12日にはPTA文化研修部さん主催のメディアとの上手なつきあい方の講演会があります。ぜひご来場くださり、子どもたちのために研修してくださいませようよろしくお願いいたします。

子どもたちのためにと

先日、子どもたちの乗る一輪車30台の点検をボランティアさんがしてくださいました。空気を入れ、虫を替えて乗れるようになった一輪車が昇降口前にあります。大切に使用させていただきます。本当にありがとうございました。



22 日付の読売新聞には「子がスマホ依存、日米 6 割」という見出しで記事が載っていました。13 才から 18 才までの日本とアメリカの親子約 600 組の調査によると、日本の親子の約 90%がスマホをもち、子どもの 1 日平均使用時間は 4 時間 18 分、子どもがスマホに依存していると回答した親は日本 61%、米国 59%でほぼ同水準、結果から生活にスマホが深く根付いている様子やいずれの家庭でも携帯端末を巡る問題を抱えている実態がわかったとのことです。

爽やかな季節を迎える 2 学期、 様々な学習や行事の多い 2 学期、一人ひとりの子どもたちにとって学びの多い、充実した学期となるように職員一同努めてまいります。かわらぬご支援・ご協力をよろしくお願い致します。